

# 佐賀市 29 歴史探訪

## さがけんさいこ じんこつ ひがしみょういせき 佐賀県最古の人骨と東名遺跡

国土交通省により金立町に巨勢川調整池が建設されましたが、その中にある東名遺跡の調査で、佐賀県内で最も古い人骨が発見されました。頭から足まで、全身の形が分かるものが5体分あり、周辺の状況から約7,000年前(縄文時代早期)の人骨であることが分かりました。いずれも当時の特徴である屈葬(※)の状態で見られ、集落の一面に埋葬されていました。日本の土壌は酸性が強く、骨などは残りにくいのですが、この人骨の場合は、水分の多い粘土層で外気から遮断されていたことなどから例外的に残ったものと考えられます。

東名遺跡は、平成5年から8年にかけて実施された発掘調査によって、標高3m程の低地に立地する縄文時代早期(約7,000年前)の集落跡であることが分かりました。多くの土器や石器などが出土し、調理などに使用された炉の跡が150基以上も発見されました。出土した土器のほとんどは鹿児島を起源とする「塞ノ神式土器」(※)と呼ばれるもので、これだけ多量に見つかったのは北部九州では初めてです。

九州における縄文時代早期の遺跡は、鹿児島を中心とした南九州に多く、鹿児島が当時の文化の中心地であったと考えられています。大規模な発掘調査が行われた上野原遺跡(鹿児島県国分市)では、塞ノ神式土器をはじめとした多量の土器とともに、佐賀県多久市周辺でとれる石材を用いた石器が数多く出土しています。

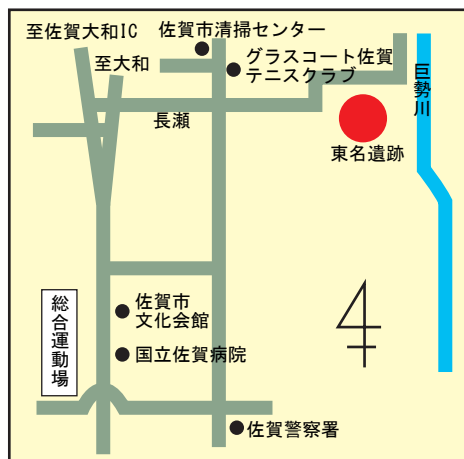
鹿児島起源の土器が佐賀で、佐賀産の石材を使った石器が鹿児島で見られていることから、両地域は、有明海などを介し交流があったことが十分考えられます。東名遺跡で出土した人骨は、こうした交易に携わった人々だったのかもしれない。

※屈葬…手足を折り曲げて葬ることからこう呼ばれています。壺が迷い出ないようにして埋めたとか、再生を祈って胎児のように埋めたなどという説があります。

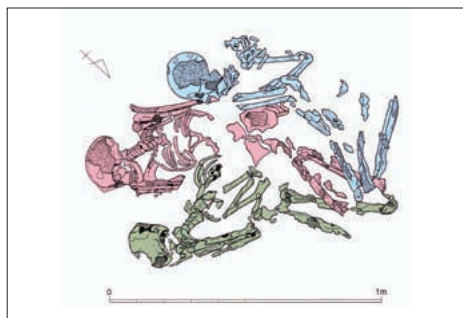
※塞ノ神式土器…鹿児島島の塞ノ神遺跡で初めて発見され、この名が付けられました。円筒形のバケツのような器形で、赤貝などの2枚貝や、より糸を転がして文様を付けています。

### 一口メモ

東名遺跡から出土した人骨の中には、3体同時に埋葬されたものがありました。病気や事故などによって、同じ時に亡くなったためと考えられます。いずれも北東方向に顔の正面を向け、横向きに葬られていました。



東名遺跡の位置図



▲3体同時に埋葬された人骨



▲塞ノ神式土器



▲炉の跡